

〈2017年1月23日書店発売〉



半世紀余にわたり不実な誤った教育言説を論破し続けた研究者の信条——

**日本語。この論理的な言語で論じ戦い抜くのだ。**

◆目次

- 序
- 第1章 「アクティブ・ラーニング」の害
- 第2章 句点無ければ、文は無し。
- 第3章 〈番〉
- 第4章 教育史の害
- 第5章 引用無きところ、インチキはびこる。
- 第6章 創造のための定義
- 第7章 基準系記号としての経験
- 第8章 言葉の皮がはがれると
- 第9章 議論が無い。
- あとがき

四六判上製 定価 本体一八〇〇円＋税

宇佐美寛 著

# 議論を逃げるな

——教育とは日本語——

ぜひ、本書を講読・予習の上  
講演会にお越しく下さい。  
※当日、会場にてもご用意いたします。

# 道理が通らない教育界を憂う。

千葉大学名誉教授 宇佐美寛

でたらめ

いいかげん

## あなたの言葉は大丈夫ですか？

はつたり

あいまい

あやふや

教育界での日本語の症状の一部を右\*に指摘した。

意味が不明確なので、異なる思考の間での論争が成り立たないのである。「異なる」のかどうか不明瞭なのである。どう「異なる」のかという事実の共通認識は、もちろん無い。

これでは議論は出来ない。だから、言葉が軽視され、だれも本気で真剣な主張をしない。粘りが無い。しつこく、くどく言い続ける者は稀である。

右は、本書の現状批判の論点の一部である。まことに口惜しい思いで本書を書いた。

\*本書「あとがき」を参照のこと。(以上126頁より)

○多くの教師の日本語(国語)表現は荒れている。粗雑・意味不明である。この論理的な言語に対する志恩である。これこそ教育の退廃の根である。

○大学教員の多くは、日本の教育現実と正対していない。意識は過去の歴史や外国の思想に逃避している。教育現実を把握できるような日本語を欠いている。

○このような教師が西洋の歴史をモデルに日本の教育実践への提案をする。自分自身の実践を欠く「はつたり」の言葉である。

○教師は、講義という一方的・独善的な方法を疑わず続ける。だから、「アクティブ・ラーニング」などという空疎・無内容なスローガンがはびこり、害をなすのである。

○「アクティブ・ラーニング」の提唱者・加担者自身の日本語は粗雑である。でたらめである。学力が劣悪なのだ。これこそ「アクティブ・ラーニング」の害の見本である。

○日本語を学ぶのは、英語学習やいわゆるSNS系の情報学習よりはるかに根源的に重要である。優越・先行させなければならぬ。

ご注文書…下記にご記入の上、お近くの書店にお渡しください。

キリトリ線

宇佐美寛 著

## 議論を逃げるな

—教育とは日本語—

お名前

ご住所

ご注文冊数

冊

定価=本体1800円+税  
四六判・上製136頁  
978-4-908983-02-3

TEL / 携帯

書店様へ

ご注文書はさくら社までお送りください。日教販より貴店へ、または日教販より貴店帳合取次を経て貴店へ納品させていただきます。(客注品・返品不可)

※委託販売をご希望の場合は、別途ご連絡ください。

さくら社 TEL.03-6272-6715

FAX.03-6272-6716

〒101-0051 千代田区神田神保町 2-20 ワカヤギビル 507 号